

# 松くい虫被害材の炭化に関する研究

化学部 新村孝善, 西元研了, 出雲茂人\*1

宮原浩嘉\*2, 池本正二\*3

松くい虫被害材を利用して炭化を行い, 比表面積や吸着活性等の特性を増大させる条件の検討をしました。

炭化時間や炭化温度等の条件を変えることで, よう素吸着性能550mg/g, 比表面積530m<sup>2</sup>/gと, 木炭として最大級の特性が得られました。また, 昇温速度が表面構造や物性に及ぼす影響について試験を行い, さらに木酢液の成分について21成分の定性分析を行い, その効果について考察しました。

\*1 (株)鹿児島頭脳センター \*2 (有)クリエート \*3 (株)サニタリー

# 先染絹織物の摩擦堅ろう度品質向上処理方法について

化学部 仁科勝海\*1, 古川郁子

本場大島紬の染色方法は伝統的な泥染染色で, 奄美地方に産するシャリンバイと自然の泥田で染色する一種の草木染色ですが, 耐光堅ろう度や洗濯, 汗堅ろう度などは非常に良好ですが, その染色機構上, 摩擦に弱いという課題があり, これまでも加工条件や着用条件, 保管条件等により色落ちする物も見受けられました。本研究により反物を絹フィブロイン溶液とアミノ酸系界面活性剤に浸漬することで風合いを損なわず, 摩擦堅ろう度を一段と向上させる処理法を確立し, 特許を取得しました。

\*1 県大島紬技術指導センター